

# 第2章

## 交流及び共同学習の取組事例

---

実践的研究事業実施地区以外の区市町村においても、交流及び共同学習の様々な取組が実施されています。第2章では、新宿区、調布市、府中市の取組事例について紹介します。

本章の執筆に当たっては、以下の先生方に御協力いただきました。(敬称略)

新宿区立花園小学校・幼稚園 校長 川崎 勝久  
調布市立第一小学校長 川島 隆宏  
府中市立府中第二中学校長 高汐 康浩

# 事例1

- 学校 | 新宿区立花園小学校
- 学年 | 第1学年全体、第2～6学年特別支援学級
- 教科 | 音楽

## 音楽の学習を通じた交流及び共同学習

### 活動の概要

本校は、全校児童が150名の小規模校であり、うち新苑学級(知的障害特別支援学級)には児童21名が在籍している。全教職員が全校の児童に目を向けており、特別支援学級の児童に対しても児童理解が進んでいる。

特別支援学級の1年生3名は、4月から音楽の授業で通常の学級の1年生と共同学習を行っている。2年生以上は、個別指導計画に則って、音楽の授業での交流及び共同学習を行っている。また、特別支援学級独自でも専科教員から音楽の指導を受けている。

### ねらい

- 専科教員からの指導を通して、個性や能力を伸ばし、感受性を高め、豊かな表現力を育てる。
- 交流及び共同学習を通して、相互の人格や個性を尊重し支え合い、多様な在り方を認め合うことができるようにする。

### 活動内容

#### (1) 音楽での1年生の交流及び共同学習・年間指導計画の概要

実施時期	実施場所	主な活動内容
入学式翌日 ～2週間	通常の学級の教室、アリーナ(体育館)	○音楽専科による歌やリズム遊び等の活動を通して、楽しく小学校での授業に慣れる。 ○「1年生を迎える会」に向けて、歌の練習をする。
4月中旬 ～7月下旬	音楽室	○特別支援学級担任の付添いのもと、通常の学級の児童と一緒に、音楽の授業を受ける。
8月下旬 ～11月末	音楽室、アリーナ(体育館)	○音楽会に特別支援学級として参加するため、2学期は11月末まで特別支援学級全員での音楽の授業を行う。
12月 ～3学期末	音楽室	○特別支援担任や介助員の付添いなしで、特別支援学級児童が1年1組の音楽の授業を受ける。

- 1学期中は、特別支援学級担任が音楽の授業に付き添って学習内容や指示理解の支援を行った。授業の流れの見通しをもたせたり、皆に合わせて学習活動に参加することを促したりして、学習への基本姿勢を培った。
- 特別支援学級での音楽と学習内容が異なり、難易度の高い内容については、「毎日5分間歌う」等の学級での練習時間を設けた。スモールステップで練習を重ねることで、共同学習での音楽への抵抗感が薄れて意欲的に参加する姿が見られるようになった。
- 特別支援学級での音楽で学んだ歌やリズム打ちを、通常の学級での音楽で発表する場面を音楽専科が設けることで、児童の自信につながっていった。



授業の様子

## (2) 特別支援学級2～6年生 音楽での交流及び共同学習・年間指導計画の概要

実施時期	実施場所	主な活動内容
音楽 (週2時間)	音楽室、アリーナ (体育館)	○特別支援学級担任や介助員の付添いがなくても特別支援学級児童のみで参加可能な児童が、当該学年での通常の学級の音楽の授業に参加する。

- 前年度末に保護者と相談の上、音楽専科と打合せを行い、年間指導計画を立てて実施する。
- 児童の様子や学習内容を考慮し、必要に応じて参加する児童や単元について検討する。
- 専門的かつ個に応じた指導ができるように、日常から音楽専科と特別支援学級担任が情報共有をしている。音楽専科が一人一人の特性を生かした発問や指示、発言や発表の際の言葉のフォロー等を行うことで、通常の学級の集団に溶け込めるような雰囲気作りをしている。
- 運動会や卒業関係の練習には、5・6年生全員が基本的に参加している。内容は、歌唱(5,6年)、箏とリコーダー(5年)、和太鼓(6年)である。高学年では学習の難易度が高く、進度も早いため、特別支援担任が付き添って支援することで、技術面だけでなく情緒の安定を図っている。児童の実態からリコーダーの譜面をアレンジしたり、音楽専科の授業が入っていない時間に音楽室に箏の練習に行ったりして練習を積み重ねることで、音楽での交流及び共同学習に前向きに参加できるように取り組んだ。

## 取組の成果

### (1) 音楽での1年生の交流及び共同学習における取組の成果と今後の展望

- 音楽専科が専門性を発揮するとともに、児童の個々の特性を生かし、児童の心を掴む授業を毎回行っている。その結果、音楽や人前での発表に苦手意識が強かった1年生2名が、音楽の授業でもリーダーに立候補するほど積極的に参加するようになってきた。保護者も担任や児童から授業での様子について話を聞くとともに、学校公開で音楽の交流及び共同学習の授業を見て、驚きと共に児童の成長を実感していた。
- 音楽での豊かで幅広い直接体験を通して、興味・関心を広げ、音楽的な感受性を育て、情緒の安定や豊かな情操を養っていききたい。また、通常の学級の児童と無理なく学び合える学習活動を設けていきたい。

### (2) 特別支援学級2～6年生 音楽での交流及び共同学習における取組の成果と今後の展望

- 交流及び共同学習での音楽に参加できることが楽しみになり、児童の自信につながっている。交流及び共同学習で学んだことを生かし、特別支援学級での音楽の授業で「八分音符」「休符」といった音楽の専門用語を発表の際に取り入れるなど、いい影響を受けている。また、リコーダーの運指や箏爪での弦の弾き方など、どうすればできるのか友達同士でアドバイスする姿が見られている。更に、廊下やスクールパークで通常の学級の児童と特別支援学級の児童が互いに声を掛け合う様子から、友達関係ができていることも社会性を育てていく上でも有効である。
- 現在、特別支援学級では、担任と共に専科教員から音楽と図工の専門的な授業を受けている。児童を引き付けるような教材や言葉掛け、特性を捉えた指導や支援が行われている。今後も、児童にとってよりよい学習を探っていく。



授業の様子

# 事例2

- 学校 | 調布市立第一小学校
- 学年 | 特別支援学級第1～6学年、通常の学級第3学年
- 教科 | 総合的な学習の時間

## みんな仲間 ～遠隔・オンラインを活用した交流及び共同学習～

### 活動の概要

オンラインミーティングアプリ「meet」を活用した交流及び共同学習の実践

### ねらい

通常の学級の児童と特別支援学級の児童が関わりをもち、共に活動をすることで、相互を理解し、尊重し合う意識と態度を育む。

### 活動内容

#### (1) 年間指導計画の概要

教育課程上の位置付け: 総合的な学習の時間 (全20時間中5時間目)

実施時期	主な活動内容
6月	交流会に向けての理解教育 (3年生に対する特別支援学級についての紹介)
7月	特別支援学級主催の交流会
9月	3年生主催の交流会
11月	学習発表会 (共同発表)

#### (2) 事前学習

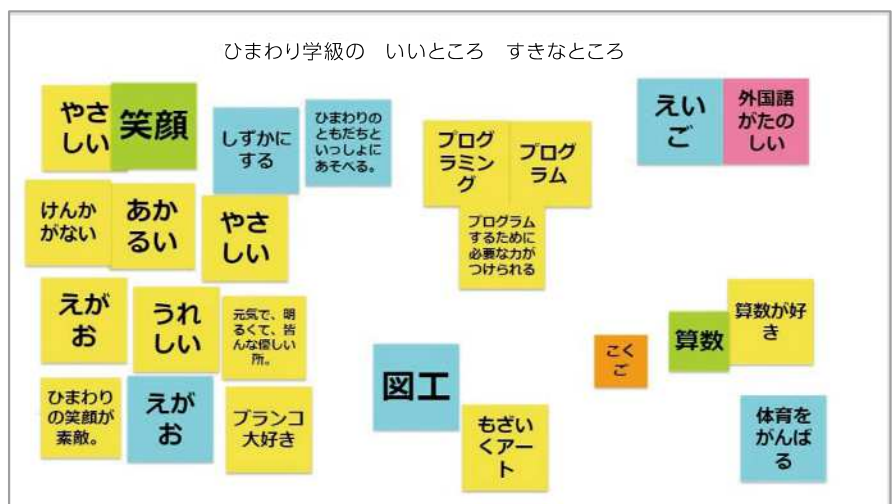
##### ■ 話し合い活動

オンラインホワイトボードアプリのJamboardを活用して、ひまわり学級 (知的障害特別支援学級) の児童が考える「特別支援学級の良いところ・好きなおところ」を共有しながら、学級内で話し合った。特別支援学級は「明るく笑顔で楽しい学級であること」「頑張っている教科がある」と多くの児童が考えていることが分かり、それを3年生に紹介したいと考えようになった。

Jamboardを活用することで、児童の意見が瞬時に共有され、教員が主導するのではなく、自分たちで紹介したいことを考えることができた。

##### ■ 紹介する内容の準備

グループに分かれて、自分たちが頑張っていることをクイズにしたり、普段行っている学習をゲーム形式で紹介したりすることにした。また、児童の特技を動画で撮影したり、ゲームを作成したりした。



Jamboard活用の様子

### (3) 当日の学習

オンラインミーティングアプリ「meet」を活用して、特別支援学級と通常の学級3年生の各教室をつなぎ、オンライン交流会を行った。

#### ■ 自己紹介クイズ

児童の得意なことをクイズ形式で出題した。正解発表後には、事前に撮影した特技の動画を共有し、全体に紹介した。ソフトボール投げの50mを超える遠投や空中逆上がりの成功に、3年生から大きな歓声が上がった。

#### ■ 学習紹介

特別支援学級で日頃取り組んでいる学習の紹介を行った。普段取り組んでいる外国語活動や算数の活動をオンラインでも参加できるようにアレンジして、一緒に体験できるようにした。また、プログラミングで作ったゲームを画面共有機能を使って紹介した。

画面に注目し、見せたいものを焦点化することで、分かりやすく各々の児童の良さを伝えることができた。次の交流で、実際に対面で交流したいという気持ちを高めることができた。



オンライン交流会の様子(特別支援学級)

### (4) 工夫した点

- オンラインでも楽しめるようにゲームの工夫をした。画面上で見せたいところを分かりやすく示すことができる良さを最大限に有効活用した。
- 児童の集中力が継続できるように、オンライン交流の途中で体操を取り入れ体を動かす場面を作ったり、一つの紹介コーナーの時間を短くしたりするなど場面設定の工夫をした。
- 児童の特技が一番輝く場面を見せられるように、事前収録し、動画を画面共有機能で紹介した。



オンライン交流会の様子(通常の学級3年生)

## 取組の成果

#### ■ 児童についての成果・展望

- Jamboardを活用して意見交流しながら発表内容を決めたことで、教員主体の交流ではなく、児童が主体となって交流計画を立てることができた。
- オンラインミーティングアプリ「meet」を活用し、各々が日頃生活する教室から交流会を行うことで、リラックスした雰囲気の中で児童が生き生きと活動することができた。緊張の強い児童の不安感を軽減し、児童の個性を十分に発揮することができた。
- あらかじめ動画撮影をすることで、鉄棒やソフトボール投げなど、教室では紹介することが難しい特技や、人前では緊張して力を発揮することが難しい児童の特技を発表することができた。多くの児童から賞賛されたことが自信となった。

#### ■ 教員としての成果・展望

- 相互を理解し、互いを尊重し合う意識と態度を養うという本来の目的を達成することは、オンラインの交流だけでは難しい。共に同じ体験をする活動を取り入れ、多くのコミュニケーションを取る必要がある。オンライン、対面、双方の良さを生かし計画を立てることの重要性が分かった。
- 3年生は、近隣の特別支援学校ともオンラインでの交流会を行っている。オンラインによる交流は、場所や時間の制約の問題を取り除くことができることが分かった。
- ICTの活用で、今まではできなかった指導が行えるようになった。ICTを活用し、児童の可能性がより高くなるような手立てを追求していく。

# 事例3

- 学校 | 府中市立府中第二中学校
- 学年 | 特別支援学級第3学年及び通常の学級第3学年
- 教科 | 社会、数学、理科、保健体育

## 生徒の「互いに尊重する精神力とレジリエントな生活力」を高める交流・協働(共同学習)の推進 ～ダイバーシティ・インクルージョンの実現に向けて～

### 活動の概要

#### (1) 互いに尊重する精神力を高める取組

特別支援学級の生徒が通常の学級の教科の授業を受けることを通して、特別支援学級及び通常の学級に在籍する生徒の「互いに尊重する精神力」を高める。

#### (2) レジリエント\*な生活力を高める取組

特別支援学級の生徒が通常の学級の教科の授業を受けることを通して、「社会に必要な基礎的なコミュニケーション力、特に自分の考えを整理して分かりやすく伝える言語能力」を高める。

\*レジリエント: 弾力があるさま。柔軟性があるさま。

### ねらい

- 障害の有無にかかわらず、誰もが互いに人格と個性を尊重しあえる共生社会の「形成者」を育成する。
- どのような困難にも他者との協働によりレジリエントに取り組もうとする「人材」を育成する。

### 活動内容

#### (1) 事前の取組

- 保護者会におけるインクルージョンに関するガイダンスと当校における具体的取組の説明(通常の学級の教科の授業における交流及び協働(以下、「共同学習」という。)、個別面談(三者面談)の実施
  - ・個別の指導目標等の決定
  - ・教科の決定
  - ・配慮事項についての確認 等
- 本取組のねらい等の通常の学級の生徒へのガイダンス及び指導



共同学習での生徒の学習の様子



校外活動・府中工業高校訪問の様子

#### (2) 当日の取組

- 特別支援学級の「朝の会」で当日の共同学習実施予定の確認
- 共同学習実施

#### (3) 事後学習

- 特別支援学級での振り返りの実施 —共同学習での学習内容の確認等
- 学習支援 —宿題等への支援等

#### (4) 工夫が必要な点

- 交流を行った時間に行われている特別支援学級の授業のフォローの活動が必要である。放課後等を活用して個別に指導を実施している。

この詩は、「人間の尊厳」をテーマとして生きている。一個の人間として、同時に、他人も一個の人間として尊重すること、この大切さを教えてくれています。このことは人間が幸せに生きていくために不可欠なことだと思います。他人に依存し、もしくは支配的になり、他人のエネルギーを吸い取って生きているのではなく、自分の中から湧き出る新鮮なエネルギーを活力とすることで生きていくという実感を得ること、そして、一個の人間である他人を尊重し、お互い協力して生きていくことを求め続けたいと思います。今、自立する大人になっても参考になります。

指導資料: 学校だより『自他の尊重(武者小路実篤「一個の人間」)』の記事を活用して指導

## 取組の成果

### (1) 特別支援学級に在籍していた生徒の声 (令和4年11月に卒業生4名に対して聞き取りを実施)

#### 生徒A | 都立特別支援学校第1学年

特に、社会科の共同学習で頻繁に行ったディベート、話し合いの経験は、現在の学習や学校生活にとっても生きています。新しい仲間との出会いや会話を楽しく行うことができるようになったことは、共同学習を通して得たものの中で、最も貴重なことだと思っています。

また、共同学習を通して、社会情勢への興味や関心が高まり、現在ではテレビのニュースを欠かさずに見ています。高等部入学後に行われた「社会」のテストでは満点を取ることができました。中学校の共同学習で仲間との関わりの中で学んだ学習方法やテスト対策は、現在でも生かすことができていると思っています。

#### 生徒B | 都立高等学校普通科第1学年

特別支援学級に在籍する生徒にとって、交流授業は多くのことを学べるとも貴重な機会でした。現在、都立高校の普通科に通っているのも、通常の学級での授業を経験することにより、高校進学当初の不安が少なく、実際には学校生活や授業にスムーズに慣れることができました。共同学習を通して、教科の学習以上に学ぶことができたのは、コミュニケーション力でした。

高校で履修している「生物基礎」の授業は内容が高度なので、中学校の理科の共同学習で学んだことが、現在の学習に特に生きていていると思っています。

#### 生徒C | 私立高等学校通信制第1学年

社会、数学、理科の共同学習に参加していました。現在は通信制高校に通っていて、オンラインの授業が中心です。オンライン授業は、生徒の自主性に任されていることが多く、共同学習で学んだこと、例えば、自主学習や友達との学び合いが現在十分に役に立っています。オンラインでの友達との交流が時々ありますが、共同学習で身に付けたコミュニケーションの仕方を発揮することができていると思います。

#### 生徒D | 都立高等学校工業科第1学年

共同学習では、特にコミュニケーションの仕方を学ぶことができました。通常の学級の友達との日常的な関わりから、人との関わり方での大切なことをいっぱい学びました。例えば、保健体育の授業では、チームで練習したり、プレーをしたりし、そのようなときに、友達にどのような声掛けをすれば友達は頑張ることができるのか、落ち着いてプレーができるのかなどが分かりました。共同学習からは本当に多くのことを学ぶことができたと思います。

### 4人に共通する感想

初めは共同学習参加への不安がありましたが、通常の学級の友達が温かく迎えてくれました。そして、困っているとすぐに助けてくれました。自分たちは、他人に頼ることが多いですが、頼れば親切にいろいろと教えてくれることを知りました。自分のことをしっかりと伝えることもできるようになり、人間関係の作り方のコツを学びました。

### (2) 教育活動アンケートの結果から分かること

- 『96%の生徒が、友だちなどに思いやりの気持ちをもって接している。』

この結果から、当校が目指している「生徒の『互いに尊重する精神力』を高める」ことについて、概ね達成できていることが分かる。

## 今後の展望

### (1) 通常の学級、特別支援学級卒業生に対するリサーチ

- 当校での取組が共生社会の形成にどのように影響しているのかについて効果検証を行う必要がある。そのためには、卒業生に対するリサーチを行いたい。方法としては、学校行事等、卒業生が来校する機会を捉えて、インタビュー又はオンラインアンケートを行うなどの方法が考えられる。

### (2) 通常の学級生徒への影響の調査の実施

- 定期的実施している学校の自己評価で、アンケート形式で調査を実施する。その際には、「共生社会」の実現に関する質問項目を設置する。

# 第3章

## 交流及び共同学習に関する実態調査結果概要

---

本事業の一環として、特別支援学級の児童・生徒と通常の学級の児童・生徒との交流及び共同学習の現状を把握し、今後の検討の基礎資料とすることを目的に、令和3年度に都内区市町村を対象とした「交流及び共同学習に関する実態調査」を実施しました。

第3章では、この調査結果の概要を掲載します。



# 交流及び共同学習に関する実態調査結果

## 調査目的

特別支援学級と通常の学級の児童・生徒による交流及び共同学習の現状を把握し、今後の検討の基礎資料とするため。

## 調査対象・内容

### ■ 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する実態調査

#### 1 対象

- (1) 知的障害特別支援学級を設置している都内公立小学校(義務教育学校(前期課程)を含む。)及び中学校(義務教育学校(後期課程)及び中等教育学校(前期課程)を含む。)(以下、「小・中学校等」という)。
- (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している小・中学校等

#### 2 調査内容

交流及び共同学習の実施状況、実施内容、成果、課題等に関すること

### ■ 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する取組事例調査

#### 1 対象

特別支援学級を設置し、特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習を実施している小・中学校等のうち、各区市町村教育委員会が選定する学校

※ 交流及び共同学習を積極的に推進している学校や、交流及び共同学習に係る計画作成や事前準備を効果的に行っている小・中学校等の中から、以下の(ア)及び(イ)のそれぞれについて、原則として、区市町村ごとに小・中学校等各1校以上を選定(該当する学校が1校もない場合は、回答不要)。

- (1) 知的障害特別支援学級を設置している小・中学校等
- (2) 自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している小・中学校等

#### 2 調査内容

特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習の具体的な事例

## 調査期間

調査実施期間:令和3年9月8日から10月8日まで

※原則として、令和3年度の1学期終了時点までの実績に基づき回答

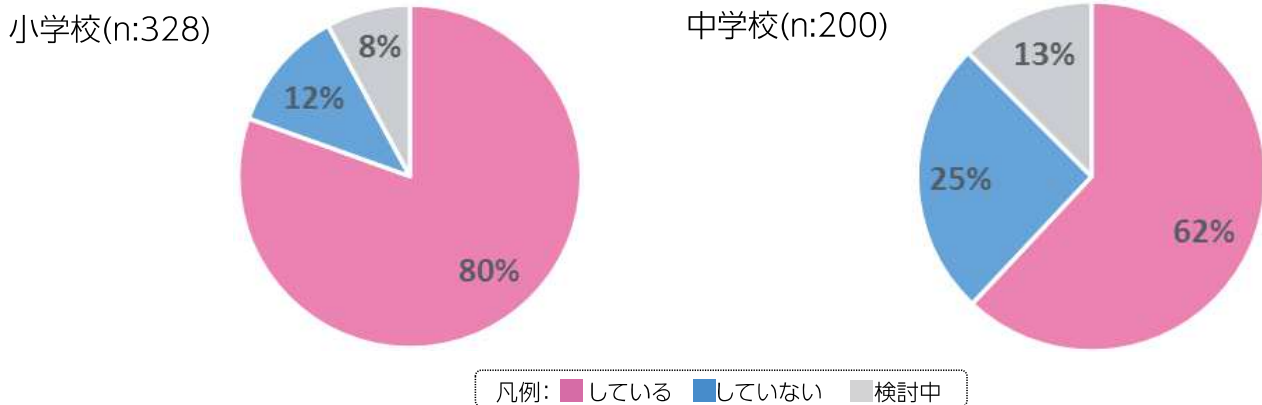
※ただし、特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する取組事例調査については、令和2年度以前の取組事例でも構わない。

## 回答校数

- |                          |      |
|--------------------------|------|
| ● 知的障害特別支援学級設置校(小学校)     | 328校 |
| ● 知的障害特別支援学級設置校(中学校)     | 200校 |
| ● 自閉症・情緒障害特別支援学級設置校(小学校) | 42校  |
| ● 自閉症・情緒障害特別支援学級設置校(中学校) | 28校  |

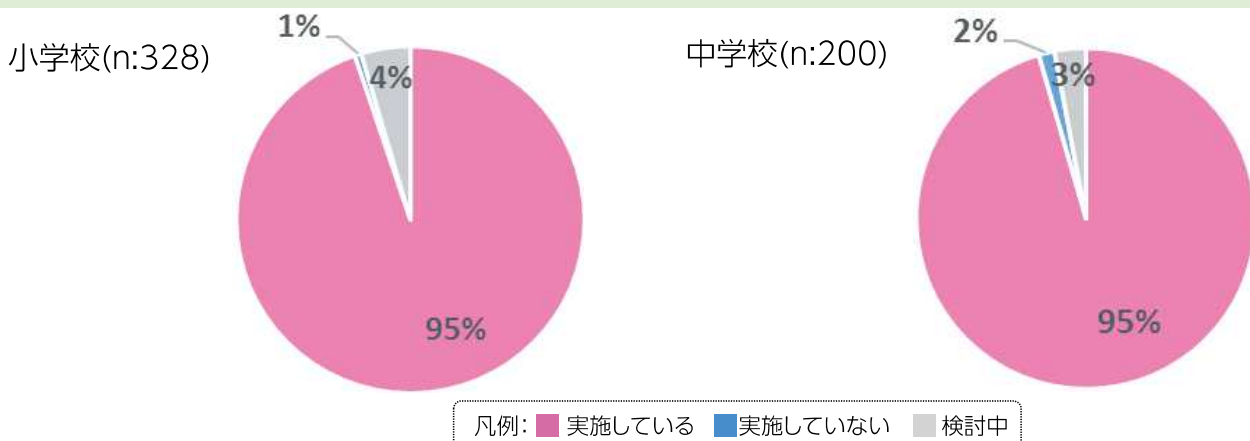
# 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する実態調査結果 (知的障害特別支援学級設置校)

## 1 交流及び共同学習に係る計画を作成している



- 特別支援学級(以下、本章においては「支援級」という。)と通常の学級(以下、本章においては「通常級」という。)の間で実施される交流及び共同学習に係る計画の作成状況については、「作成している」と回答したのは小学校で約8割、中学校では約6割となっている。

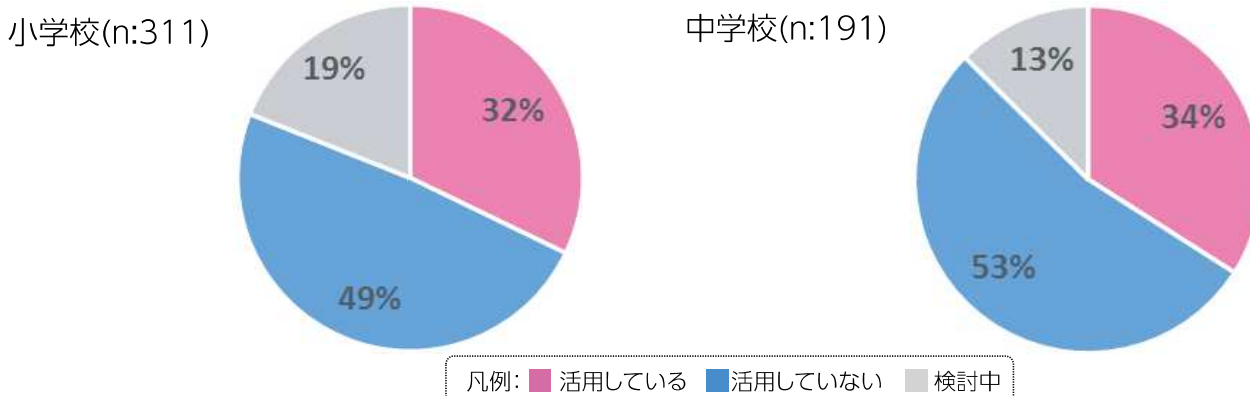
## 2 交流及び共同学習の実施状況



- 知的障害特別支援学級を設置している小・中学校等における、交流及び共同学習の実施状況は95%に上っている。

## 3 交流及び共同学習におけるオンラインの活用状況

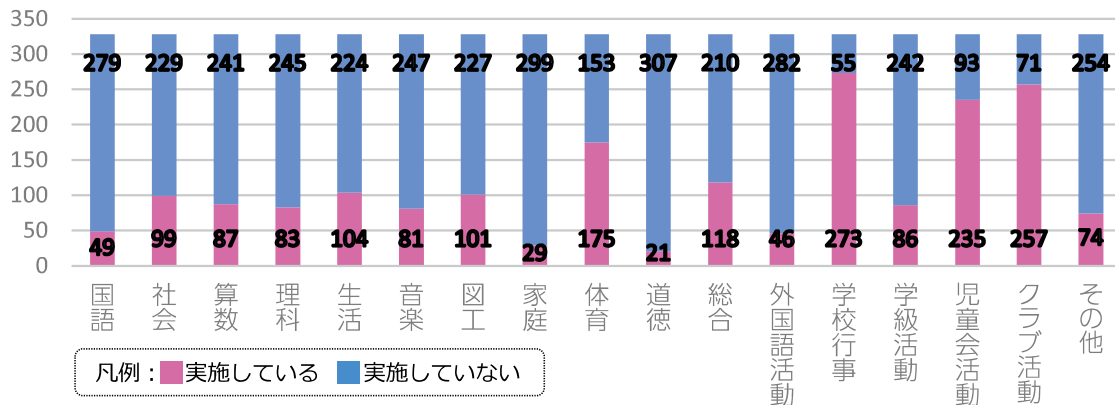
※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答



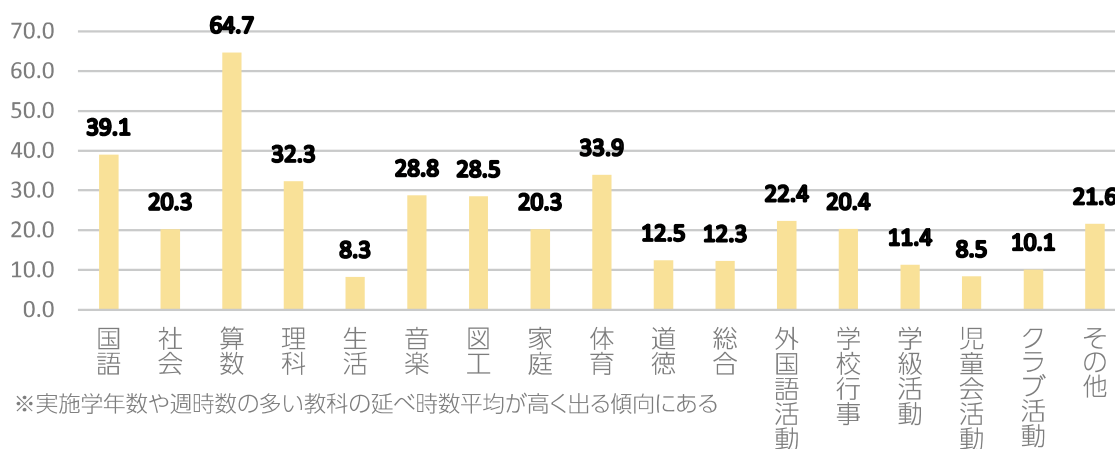
- 小学校・中学校ともに、約3割の学校において、交流及び共同学習においてオンラインを活用している。

## 4 交流及び共同学習の教科別実施状況と年間延べ時数平均

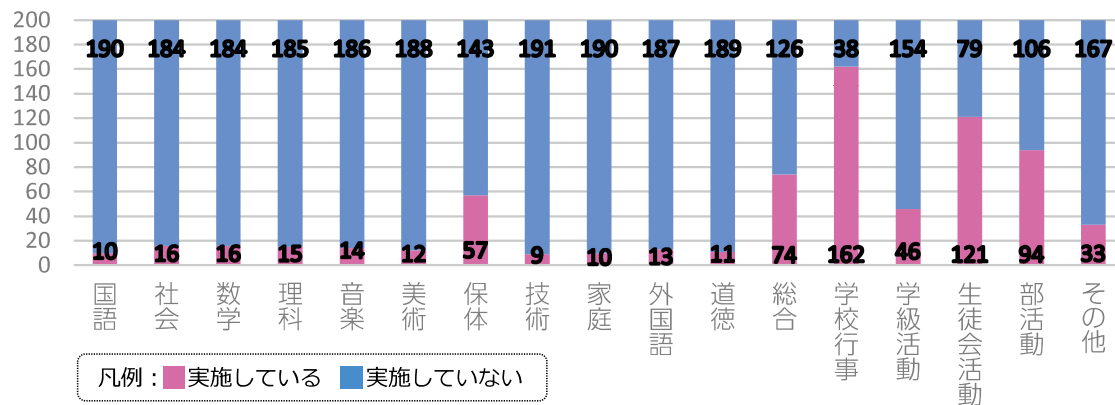
### 交流及び共同学習の教科別実施状況 小学校(n:328)



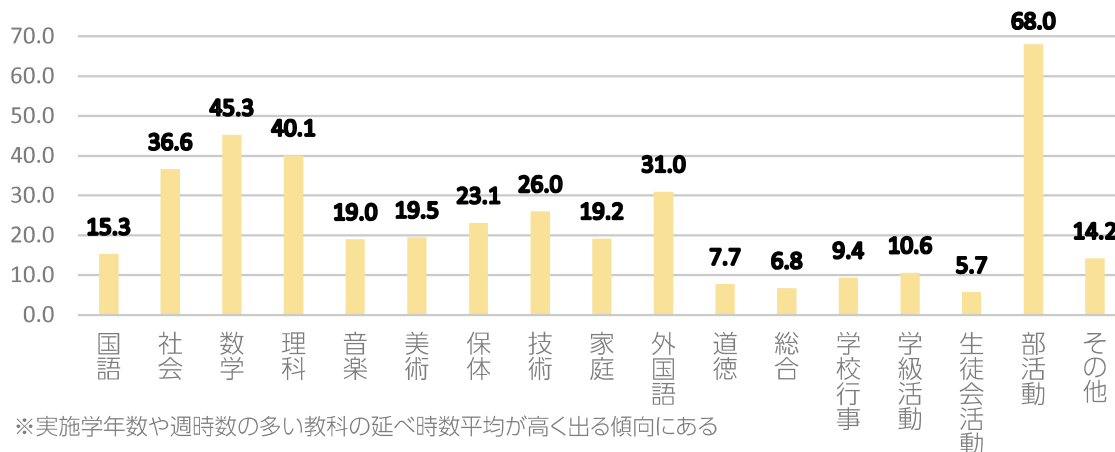
### 交流及び共同学習実施校における年間延べ時数の平均 小学校



### 交流及び共同学習の教科別実施状況 中学校(n:200)



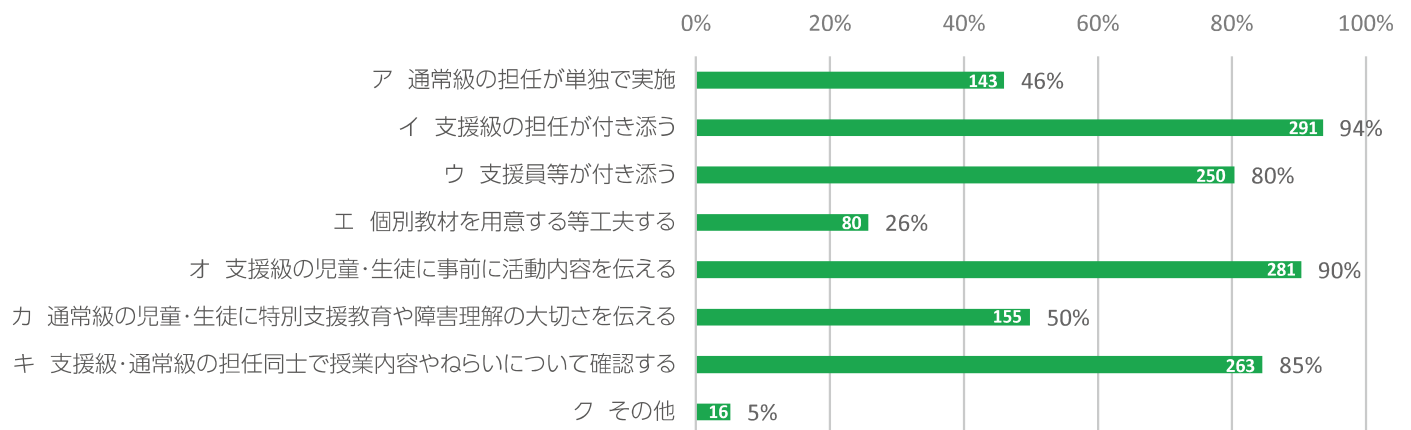
### 交流及び共同学習実施校における年間延べ時数の平均 中学校



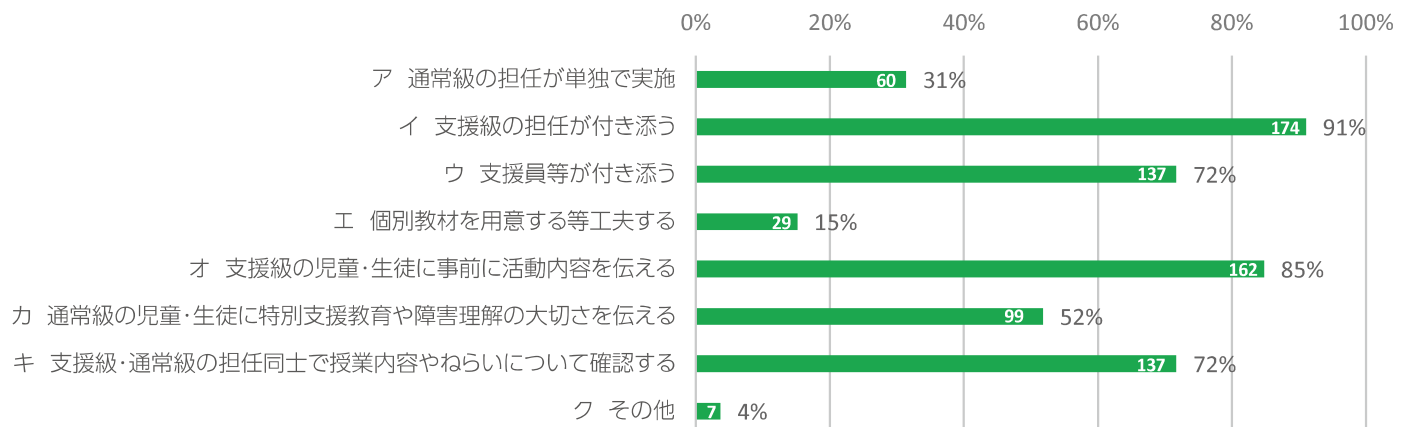
## 5 交流及び共同学習の実施に当たっての手立て

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合

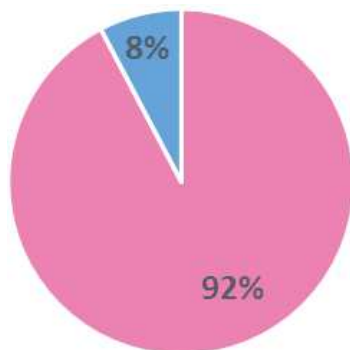


- 交流及び共同学習の実施に当たっては、児童・生徒に支援級担任や支援員等が付き添って行われている事例が多い。
- 交流及び共同学習の実施前に、支援級の児童・生徒に事前に活動内容を伝えて見通しをもたせることで、障害特性に配慮した活動が行われていることが分かる。
- 支援級と通常級の担任同士で授業内容やねらいについて、おおむね事前に確認を行った上で実施されている。

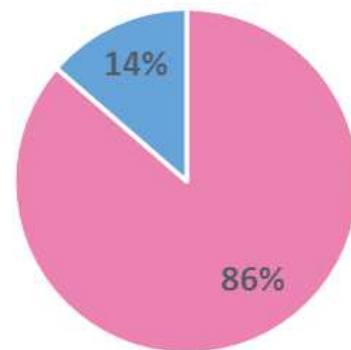
## 6 交流及び共同学習の実施に当たっての保護者への情報提供、理解啓発

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:311)



中学校(n:191)



凡例: ■ している ■ していない

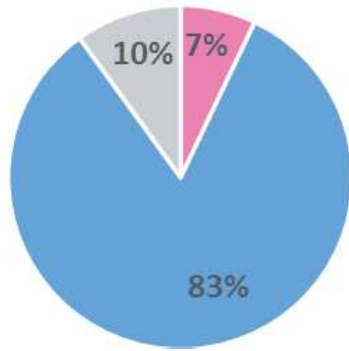
- 保護者への情報提供、理解啓発の実施方法としては、各種たより、保護者会、連絡帳、ホームページ、SNS等であった。

## 7 交流及び共同学習の実施に当たっての都立特別支援学校のセンター的機能の活用

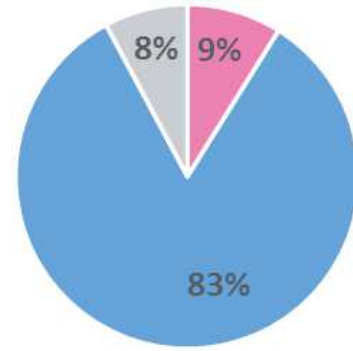
※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

### (1) センター校による支援の有無

小学校(n:311)



中学校(n:191)



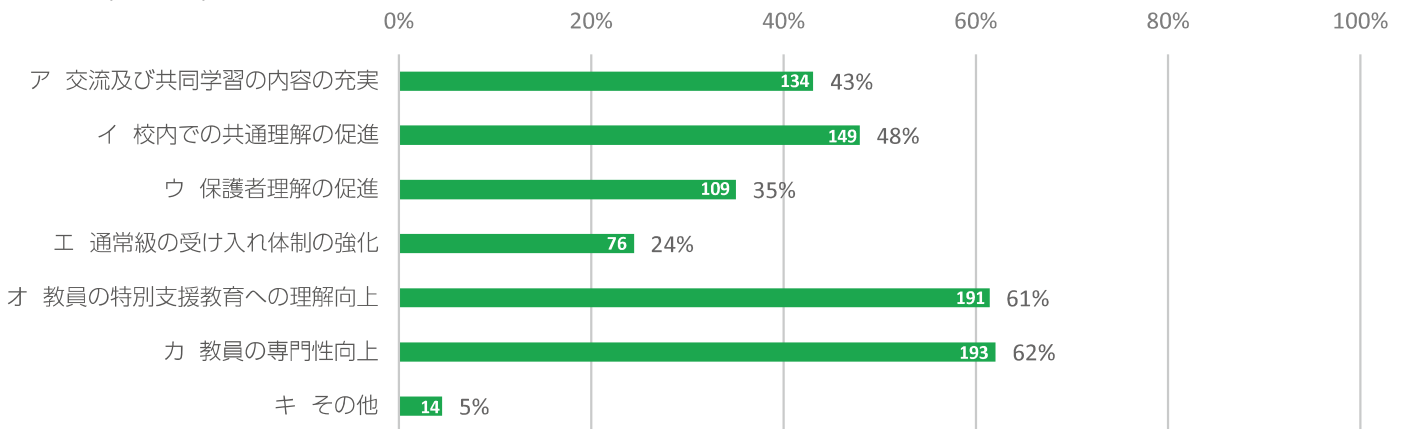
凡例: ■ 支援を受けている ■ 支援を受けていない ■ 検討中

- 支援を受けた主な内容としては、授業観察による指導方法の助言、副籍交流や子育て支援講習会の講師、進路講演会の実施などであった。

### (2) センター的機能に期待する効果

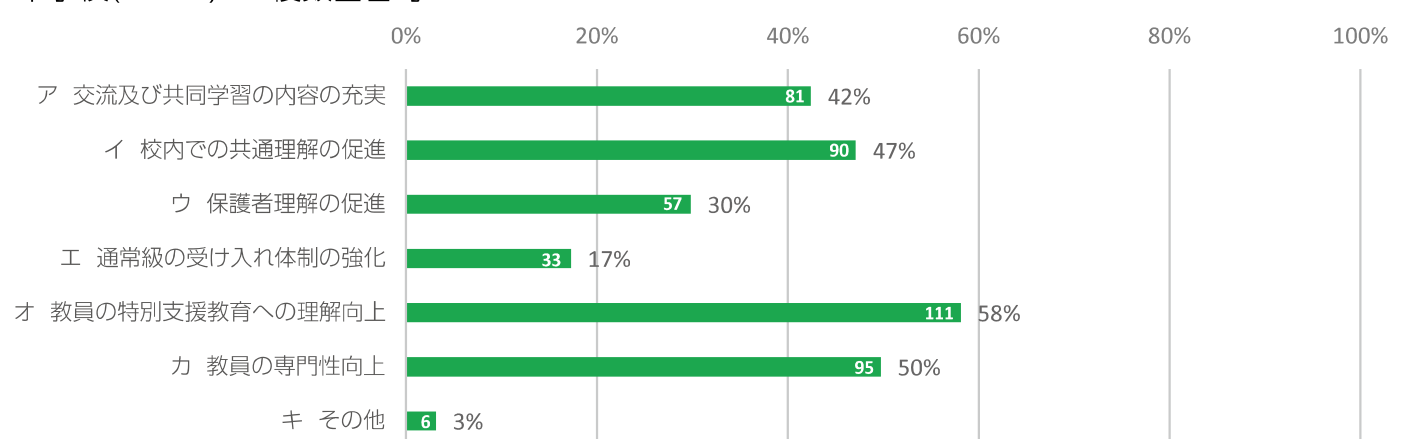
小学校(n:311) ※複数回答可

■ 回答数 ■ 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



中学校(n:191) ※複数回答可

■ 回答数 ■ 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合



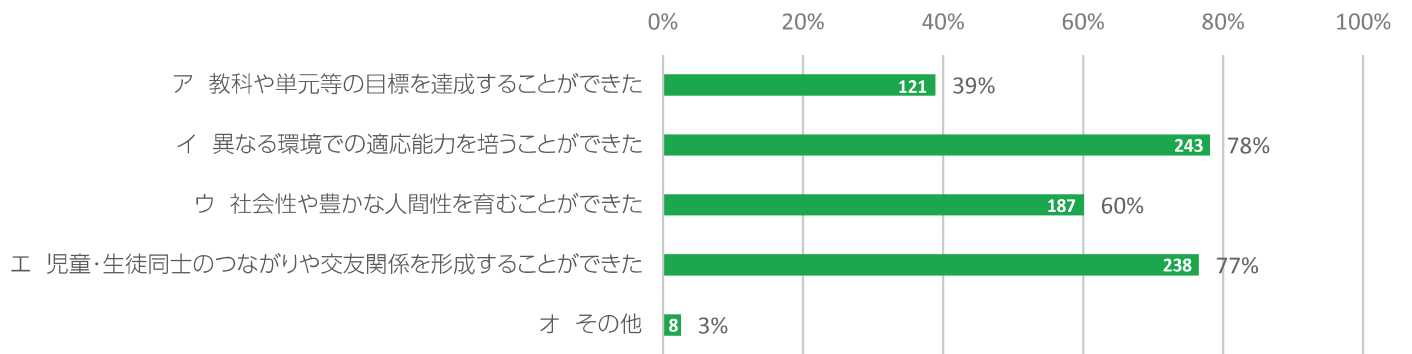
- センター的機能に期待する効果としては、教員の特別支援教育への理解向上や教員の専門性向上など、教員への指導的観点に関する期待が寄せられている。

## 8 交流及び共同学習の成果

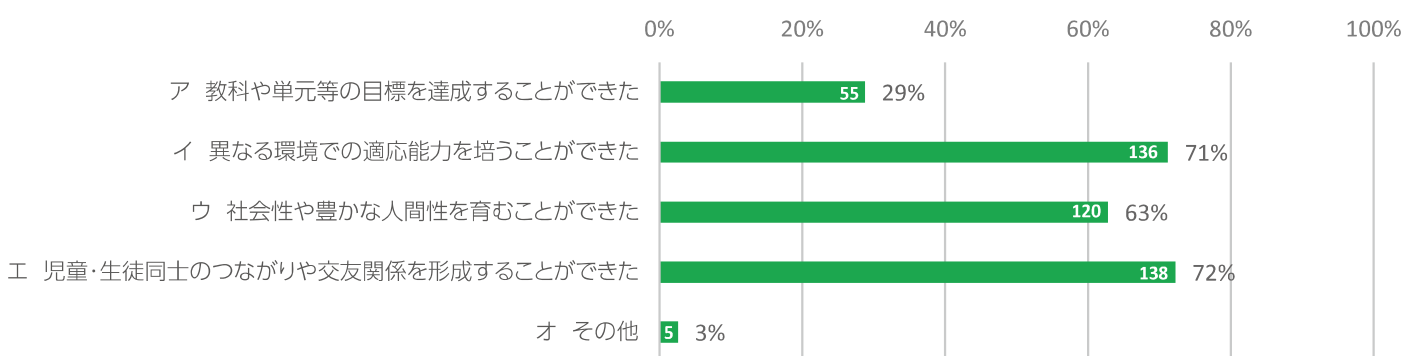
※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

### (1) 支援級の児童・生徒について

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



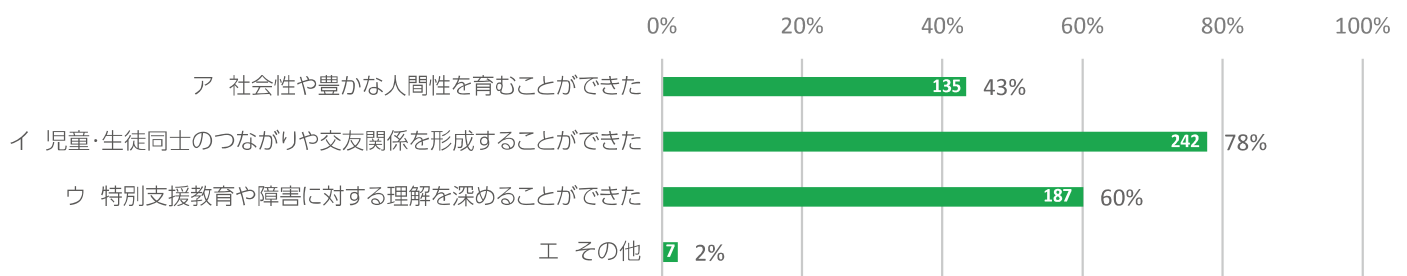
中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合



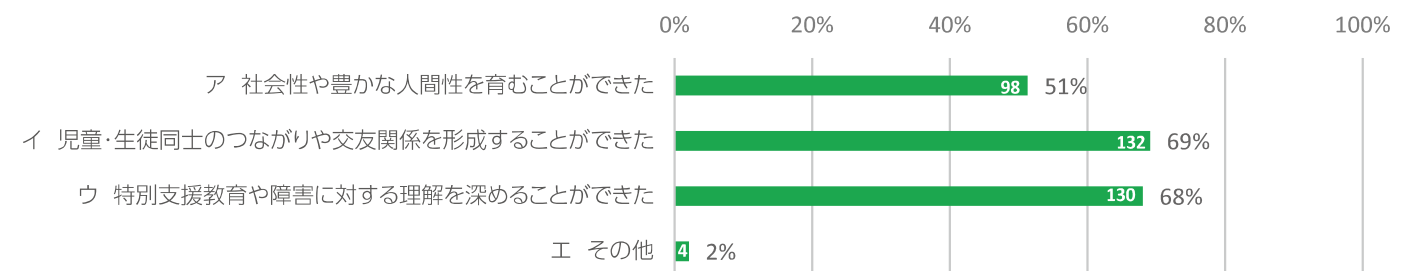
- 支援級の児童・生徒については、小学校・中学校ともに、「異なる環境での適応能力を培うことができた」、「児童・生徒同士のつながりや交友関係を形成することができた」とする回答が多い。また、教科や単元等に関しては、小・中学校等の3～4割程度において目標を達成することができたという回答があった。

### (2) 通常級の児童・生徒について

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



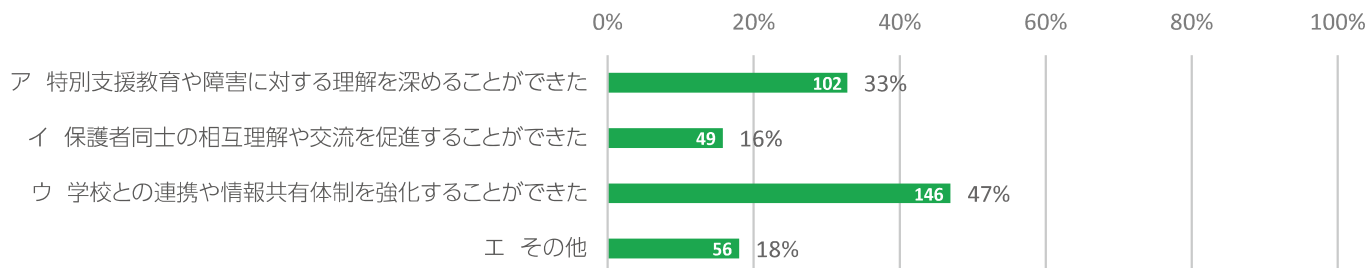
中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合



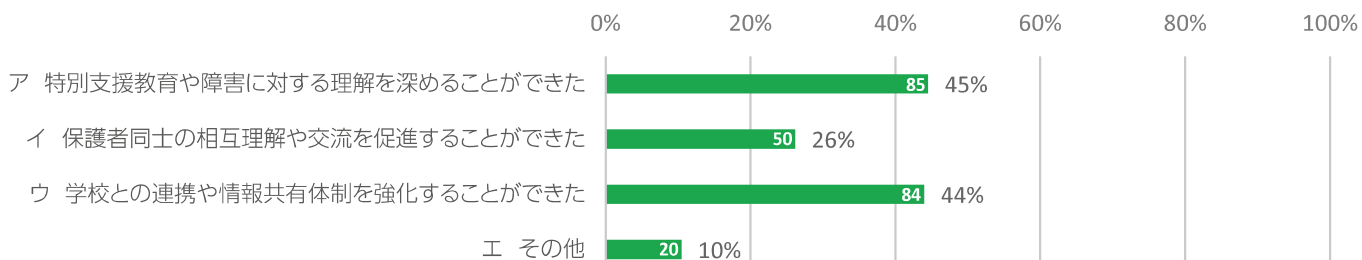
- 通常級については、小学校・中学校ともに、6～7割程度が、児童・生徒同士のつながりや交友関係の形成、特別支援教育・障害に対する理解の深化ができたという回答した。

### (3) 保護者について

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



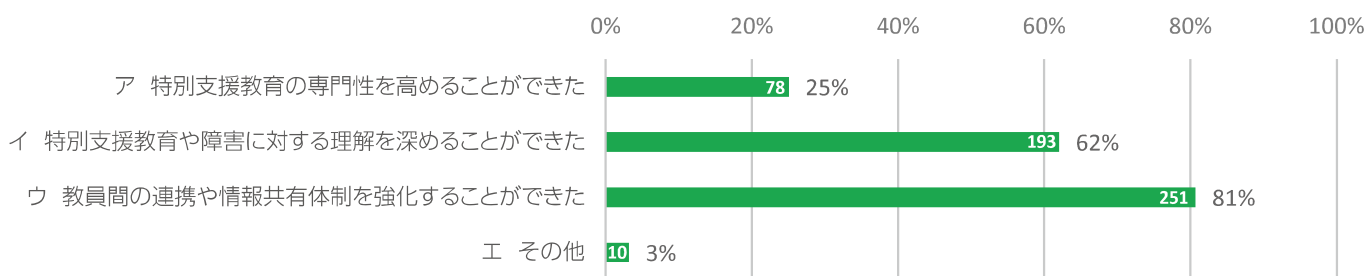
中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合



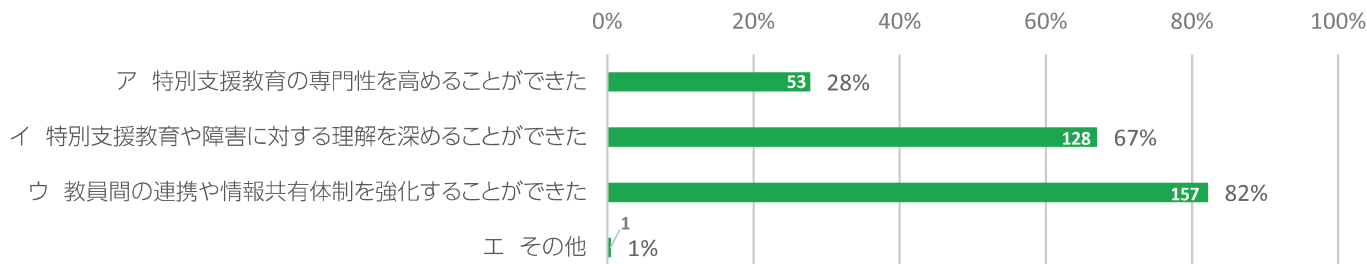
- 保護者の特別支援教育や障害に対する理解の深化については、3～4割程度の回答となっており、保護者同士の相互理解や交流の促進に関しては2割程度の回答率となっている。
- 「その他」の回答としては、「通常級の保護者の中で、支援級児童の名前を覚えて温かい声掛けをする様子が少しずつ増えた」、「支援級の保護者は、交流及び共同学習に参加できることを強く望んでいる」、「保護者への理解や啓発までには達していない」などの回答があった。

### (4) 教員について

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合

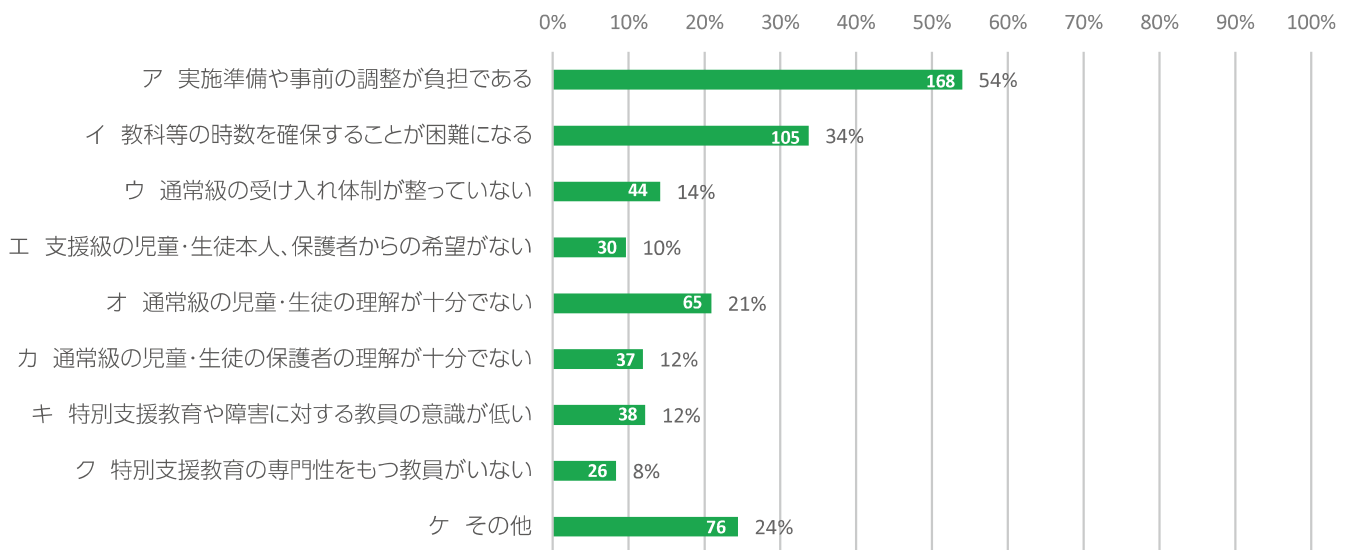


- 教員の取組については、教員間の連携や特別支援教育・障害に対する理解に一定の成果が見られる一方、特別支援教育の専門性を高めることに関しては、2～3割程度の回答率となっている。

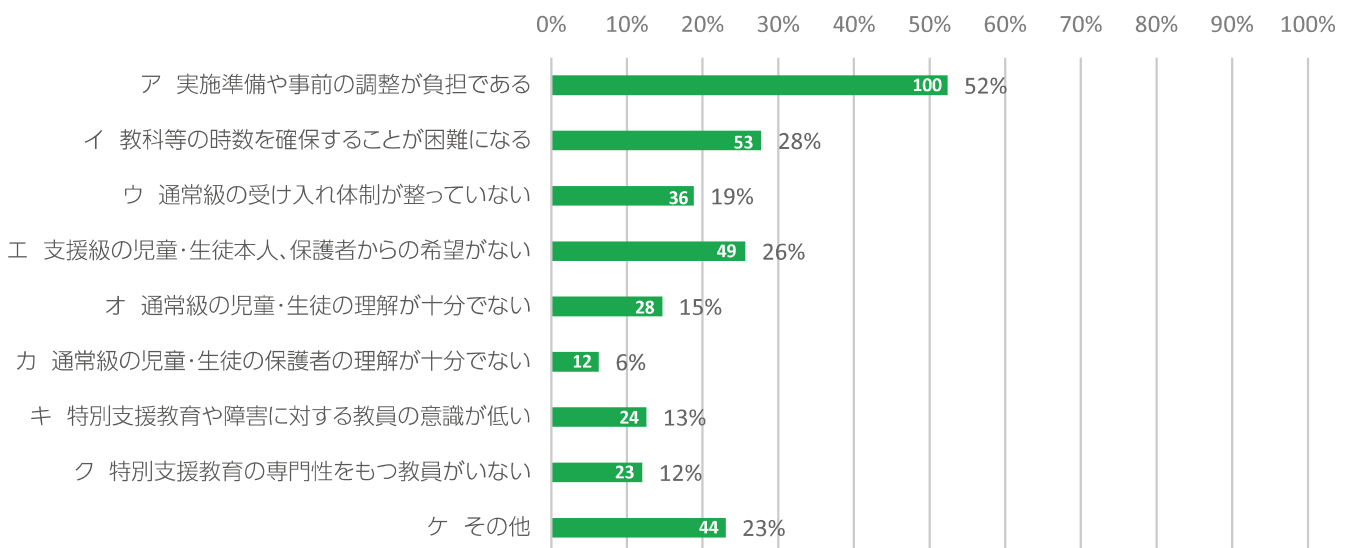
## 9 交流及び共同学習を実施しての課題、問題点等

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:311) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した311校に対する割合



中学校(n:191) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した191校に対する割合



- 小学校・中学校ともに教員の事前準備や調整が負担であるという回答が半数を超えている。
- 支援級の児童・生徒本人及び保護者からの交流及び共同学習実施に対する希望について見てみると、小学校に比べて中学校の方が、交流及び共同学習の実施の希望がないと認識している割合が高い傾向にある。
- その他の回答としては、「通常級の児童の保護者への理解促進と承諾が必要」、「人との関わりやコミュニケーションに課題がある児童・生徒は、交流及び共同学習に対して苦手意識がある」などの回答があった。



## 10 交流及び共同学習を実施していない理由等

※交流及び共同学習を実施していない又は検討中と回答した学校が回答

### (1) 交流及び共同学習を実施していない理由 ※複数回答可

理由	小学校 (n:17)	中学校 (n:9)
実施準備や事前の調整が負担である		2
教科等の時数を確保することを優先している	2	1
通常級の受け入れ体制が整っていない	1	1
特別支援教育の専門性をもつ教員がいない		1
その他	14	6

### (2) 今後、交流及び共同学習を実施する予定の有無 ※複数回答可

理由	小学校 (n:17)	中学校 (n:9)
今年度(令和3年度)から実施の予定	6	2
来年度(令和4年度)から実施の予定	2	1
時期は未定だが将来的には実施の予定	5	2
その他	4	4

※令和3年度時点の回答

- (1)の質問における「その他」の回答の大半は、「新型コロナウイルス感染症の影響のため」であった。
- (2)の質問における「時期は未定だが将来的には実施予定」、「その他」の回答の大半は、「新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら実施を判断する」であった。

## 11 自由意見(抜粋)

### 課題・懸念等

- 地域によって取組内容や頻度等に差が出ない体制やシステムづくりが必要である。どこにいる子供たちも同じように交流ができるとよい。
- 集団に入って活動することを苦手とする児童・生徒もいるため、気持ちに寄り添いながら実施していく必要があると考えている。

### 教員の意識改革

- 交流及び共同学習における教員間の連携が大切である。
- 交流及び共同学習の時間を確保することで、教員の資質向上にもつながると考える。通常級の担任にも特別支援教育の理解を深めていくことで、通常級の子供たちの理解にもつながる。

### 研修等の要望

- 支援級での教科学習が適していると考えられる児童が、通常級で教科学習を受けたいと希望した場合について、どういった流れや方法が取れるのか、資料や事例があるとありがたい。
- 障害の有無にかかわらず、個々の教育的ニーズに的確に応え、多様な学びの場を備えたインクルーシブな教育を推進するということと、現在の環境で対応できる合理的配慮の限界については、支援級の担任や通常級の担任がどう捉えて対応していけばよいのか、具体的に知りたい。

### 取組方法

- 低学年のうちに支援級の様子を知ってもらうことは大切だと考えている。
- 学年が上がるにつれて、通常級と一緒に学ぶことが難しい教科が多くなるため、学習効果をより高められる学習環境を整えられるように、教科・单元ごとに学習計画を立てて取り組んでいる。
- 「必ずこの方法で、決められた回数を行なう」ということではなく、通常級と支援級の状態に応じて、交流及び共同学習の方法や回数も弾力的に考えていければよいと思う。

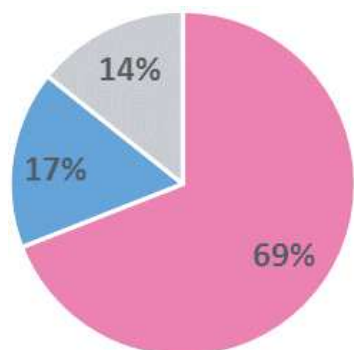
### 保護者の理解

- 保護者の理解や協力を得ながら、交流及び共同学習の実施方法について検討していく必要がある。

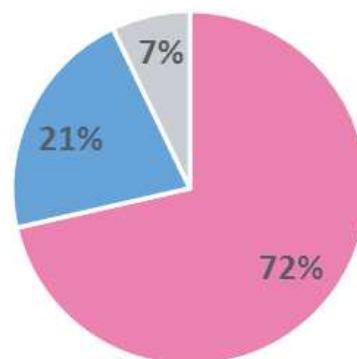
# 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する実態調査結果 (自閉症・情緒障害特別支援学級設置校)

## 1 交流及び共同学習に係る計画を作成している

小学校(n:42)



中学校(n:28)

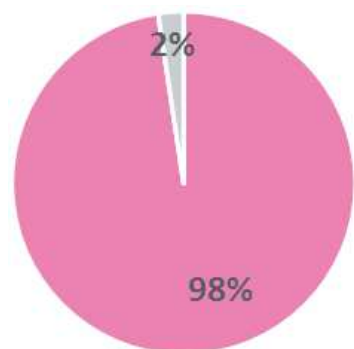


凡例: ■ している ■ していない ■ 検討中

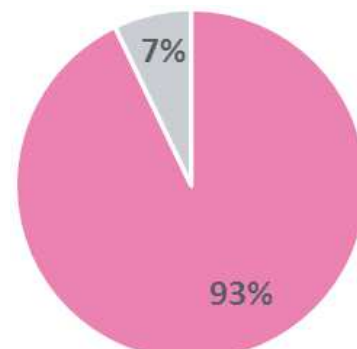
- 支援級と通常級の間で実施される交流及び共同学習に係る計画の作成状況について調査した結果、「作成している」と回答したのは、小学校・中学校ともに約7割となっている。

## 2 交流及び共同学習の実施状況

小学校(n:42)



中学校(n:28)



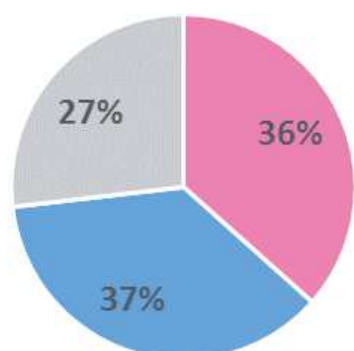
凡例: ■ 実施している ■ 実施していない ■ 検討中

- 自閉症・情緒障害特別支援学級を設置している小・中学校等においては、ほぼ全ての学校において交流及び共同学習を実施している。

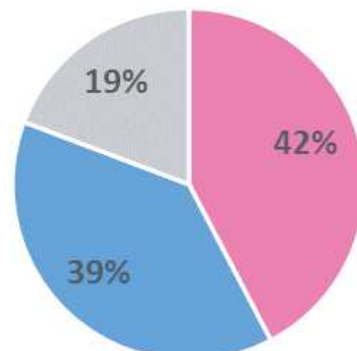
## 3 交流及び共同学習におけるオンラインの活用状況

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:41)



中学校(n:26)

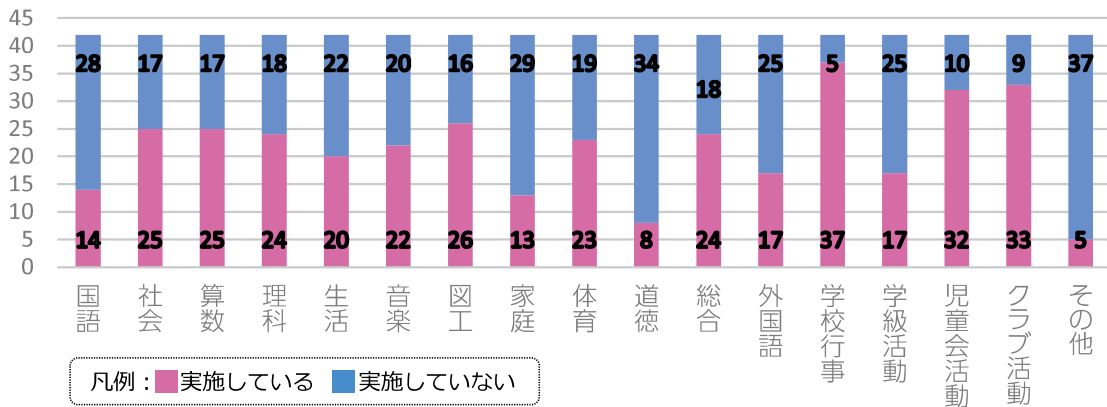


凡例: ■ 活用している ■ 活用していない ■ 検討中

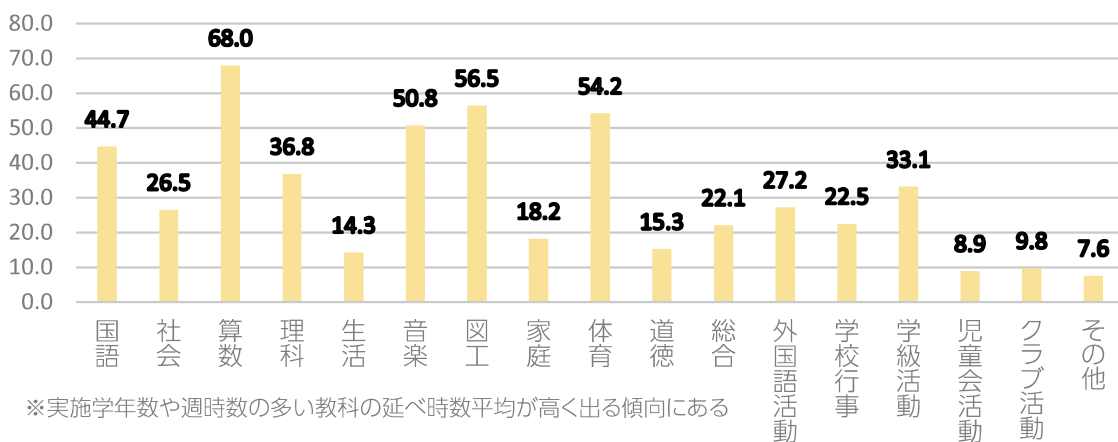
- 小学校・中学校ともに、約4割の学校において、交流及び共同学習においてオンラインを活用している。

## 4 交流及び共同学習の教科別実施状況と年間延べ時数平均

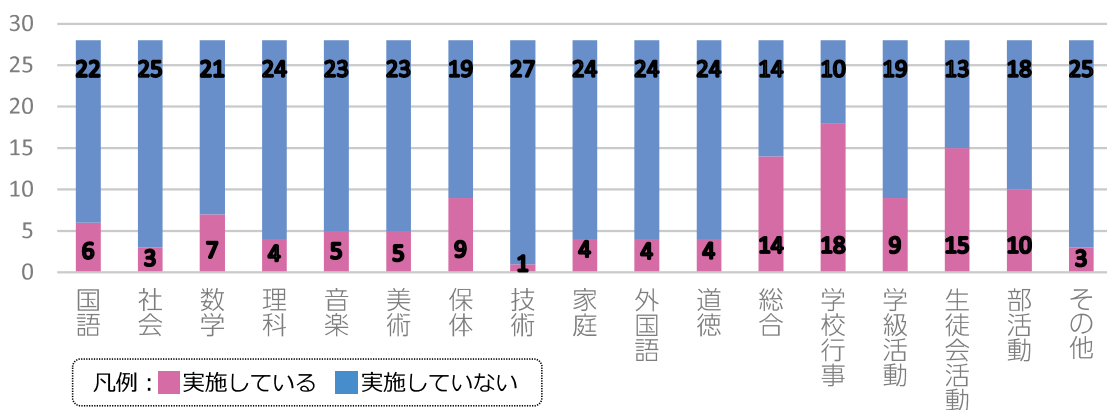
### 交流及び共同学習の教科別実施状況 小学校(n:42)



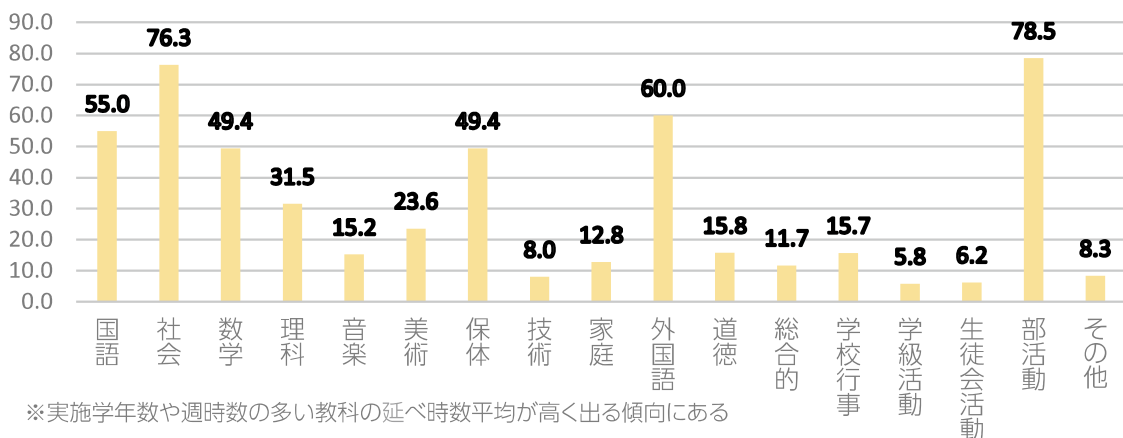
### 交流及び共同学習実施校における年間延べ時数の平均 小学校



### 交流及び共同学習の教科別実施状況 中学校(n:28)



### 交流及び共同学習実施校における年間延べ時数の平均 中学校

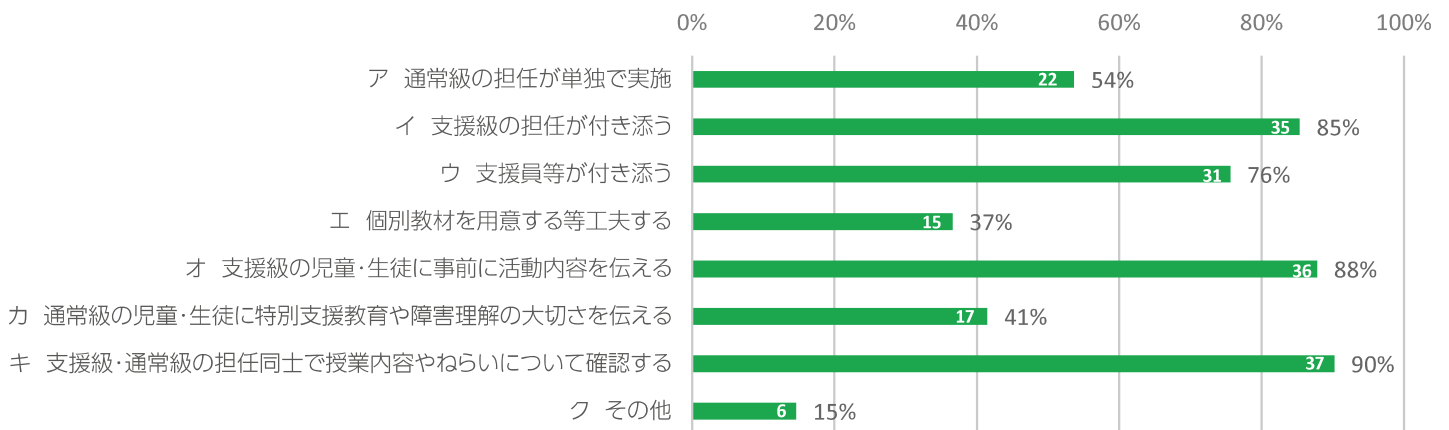


## 5 交流及び共同学習の実施に当たっての手立て

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

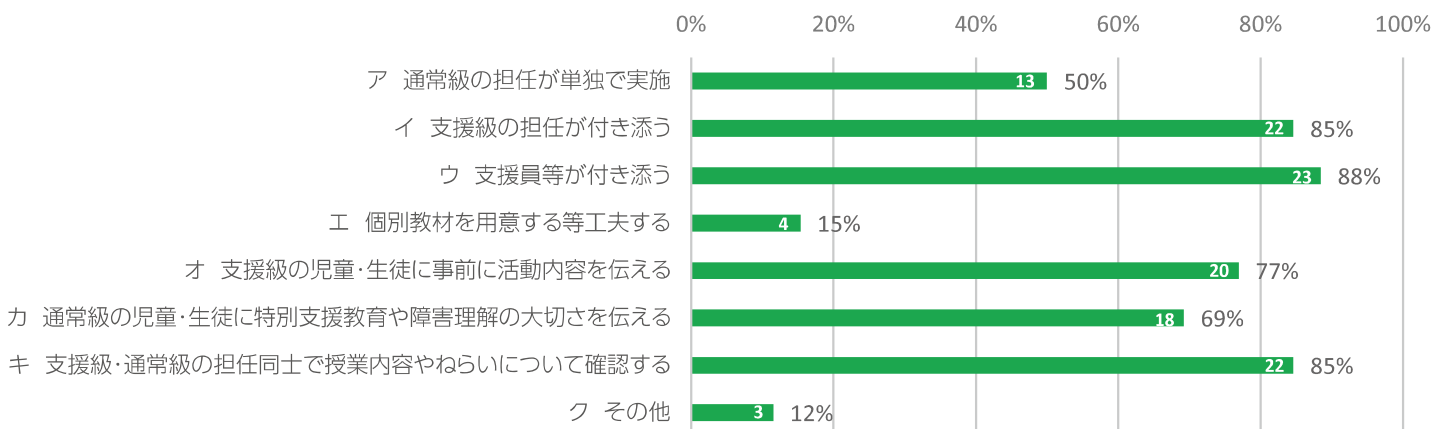
小学校(n:41) ※複数回答可

■回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



中学校(n:26) ※複数回答可

■回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合

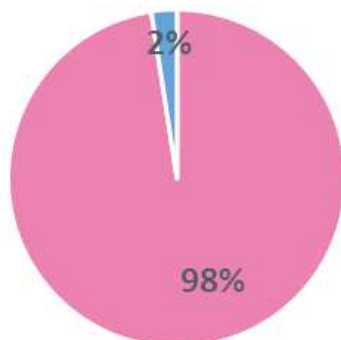


- 交流及び共同学習の実施に当たっては、児童・生徒に支援級担任や支援員等が付き添って行われている事例が多い。
- 交流及び共同学習の実施前に、支援級の児童・生徒に事前に活動内容を伝えて見通しをもたせることで、障害特性に配慮した活動が行われていることが分かる。
- 支援級と通常級の担任同士で授業内容やねらいについて、おおむね事前に確認を行った上で実施されている。

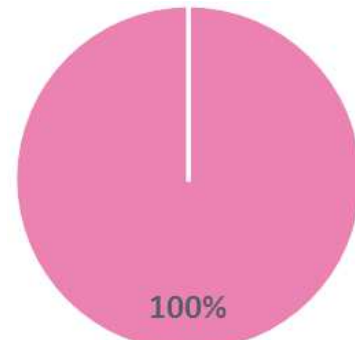
## 6 交流及び共同学習の実施に当たっての保護者への情報提供、理解啓発

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:41)



中学校(n:26)



凡例: ■ している ■ していない

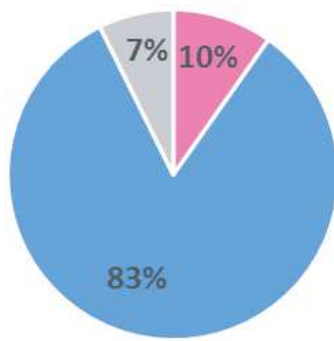
- 保護者への情報提供、理解啓発の実施方法としては、各種たより、保護者会、連絡帳等であった。

## 7 交流及び共同学習の実施に当たっての都立特別支援学校のセンター的機能の活用

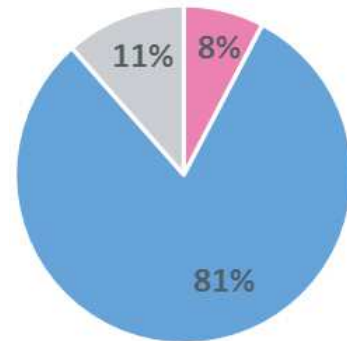
※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

### (1) センター校による支援の有無

小学校(n:41)



中学校(n:26)

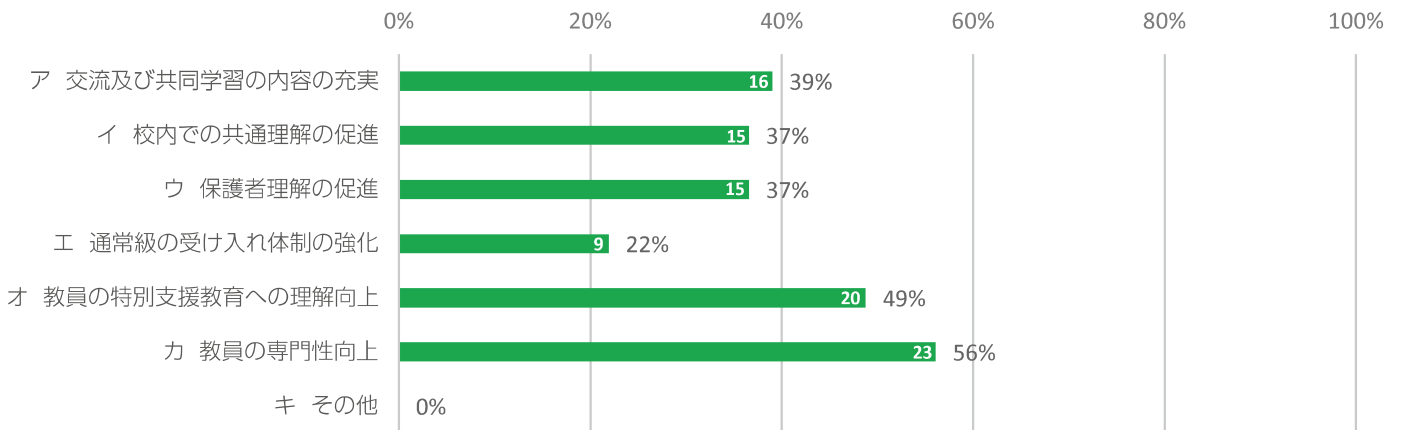


凡例: ■ 支援を受けている ■ 支援を受けていない ■ 検討中

### (2) センター的機能に期待する効果

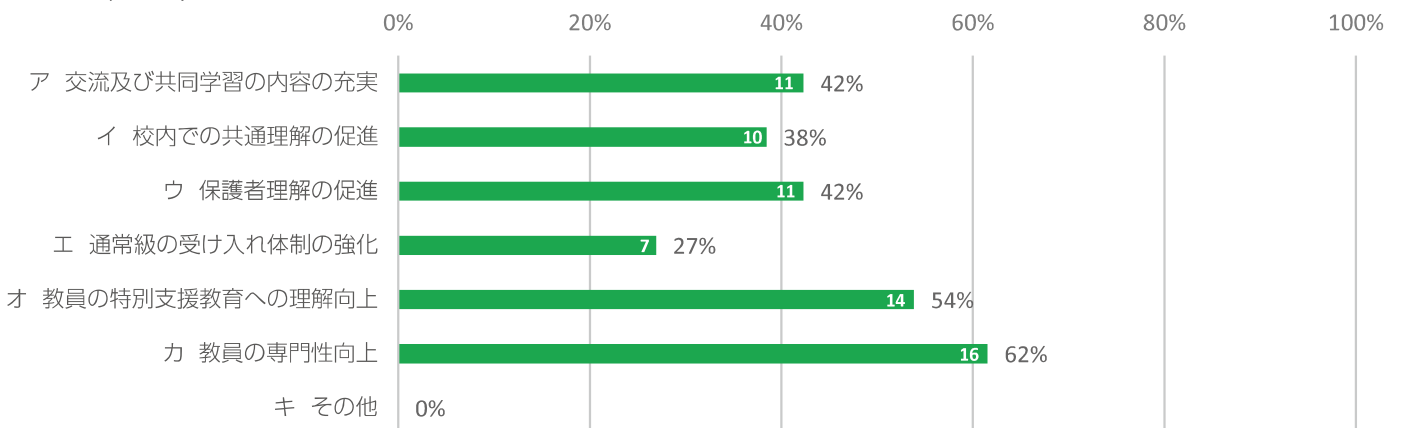
小学校(n:41) ※複数回答可

■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



中学校(n:26) ※複数回答可

■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合



- センター的機能に期待する効果としては、教員の特別支援教育への理解向上や教員の専門性向上など、教員への指導的観点に関する期待が寄せられている。

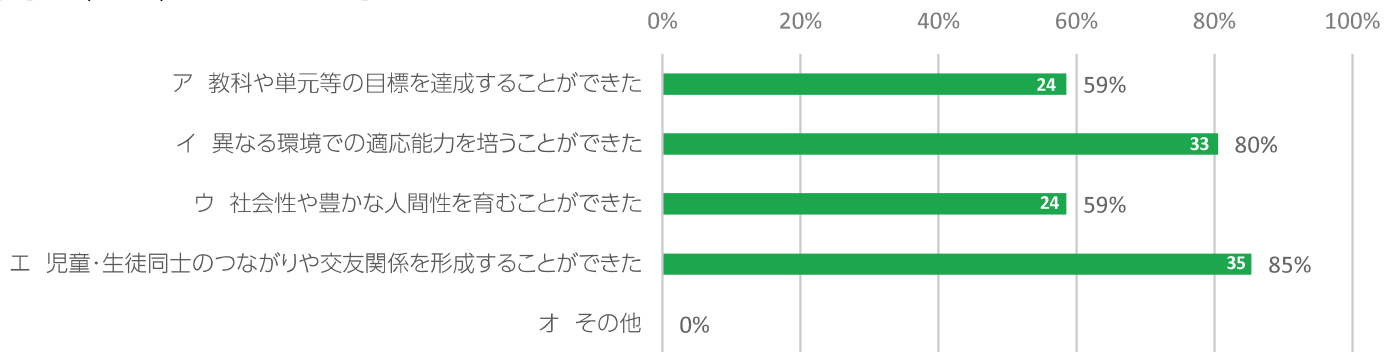
## 8 交流及び共同学習の成果

### (1) 支援級の児童・生徒について

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

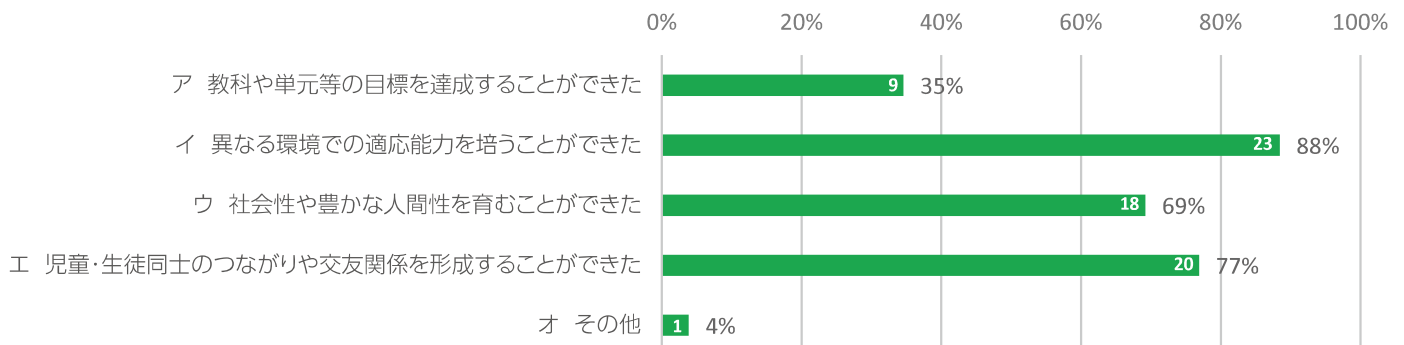
#### 小学校(n:41) ※複数回答可

■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



#### 中学校(n:26) ※複数回答可

■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合

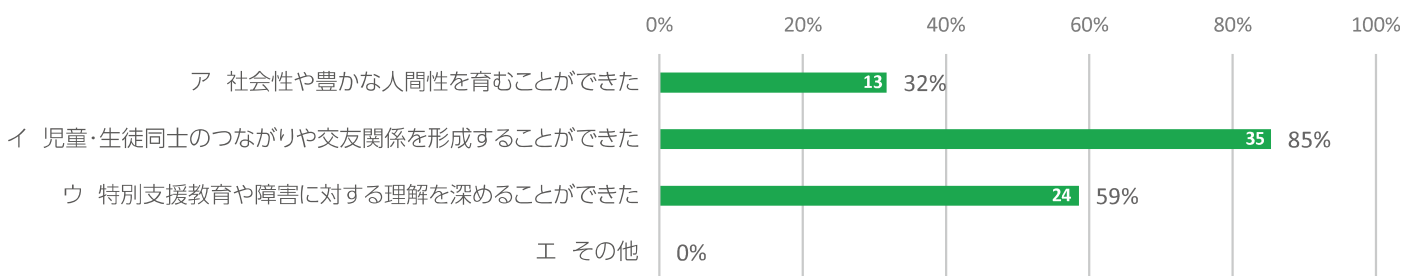


- 支援級の児童・生徒については、小学校・中学校ともに、「異なる環境での適応能力を培うことができた」とする回答が多い。また、教科や単元等の目標達成に関しては、小学校で約6割、中学校では約3割程度が目標を達成することができたと回答があった。

### (2) 通常級の児童・生徒について

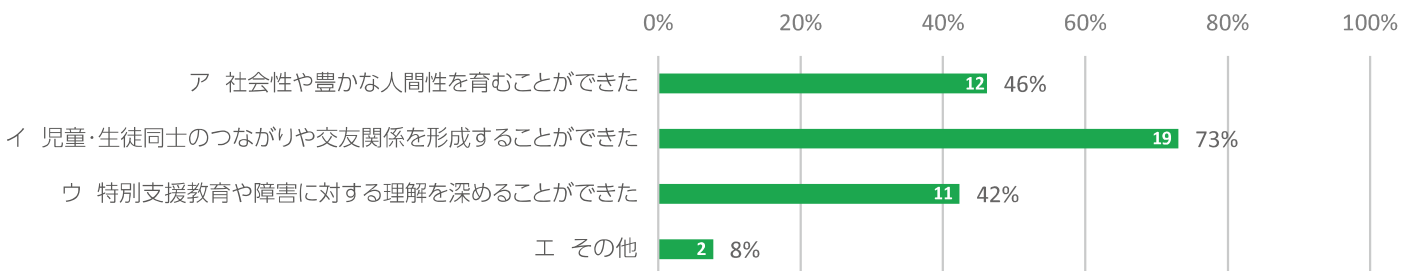
#### 小学校(n:41) ※複数回答可

■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



#### 中学校(n:26) ※複数回答可

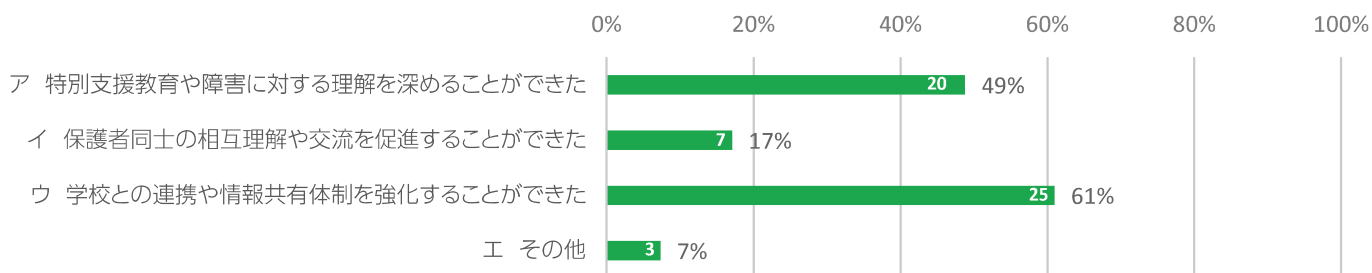
■ 回答数 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合



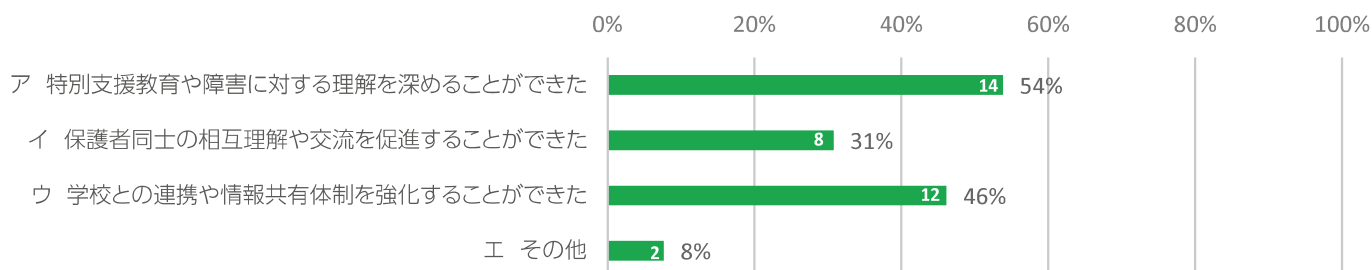
- 通常級については、小学校・中学校ともに、7～8割程度が、児童・生徒同士のつながりや交友関係を形成することができたと回答した。

### (3) 保護者について

小学校(n:41) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



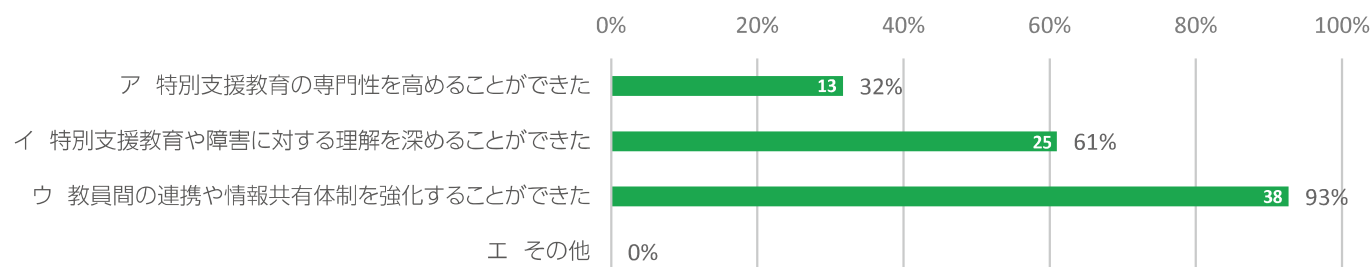
中学校(n:26) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合



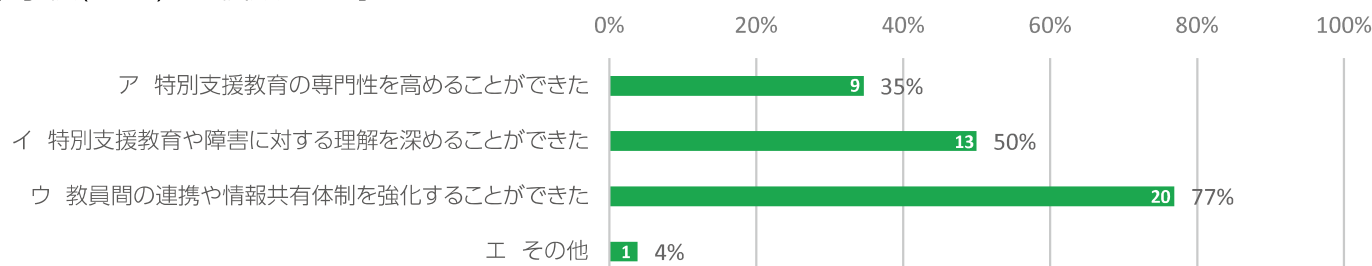
- 保護者の特別支援教育や障害に対する理解の深度については、5割程度の回答となっており、保護者同士の相互理解や交流の促進に関しては2～3割程度の回答率となっている。
- 「その他」の回答としては、「通常級の保護者から交流及び共同学習の意見等を聞く機会がない」などの回答があった。

### (4) 教員について

小学校(n:41) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



中学校(n:26) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合

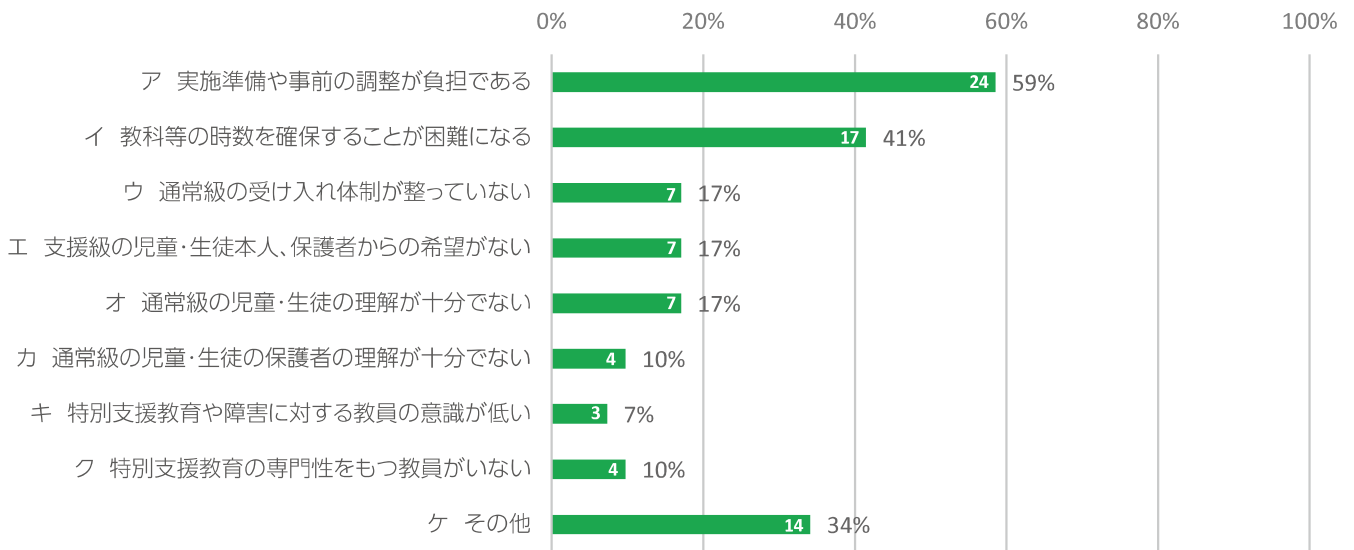


- 教員の取組については、教員間の連携に一定の成果が見られる一方、特別支援教育の専門性を高めることに関しては、3割程度の回答率となっている。

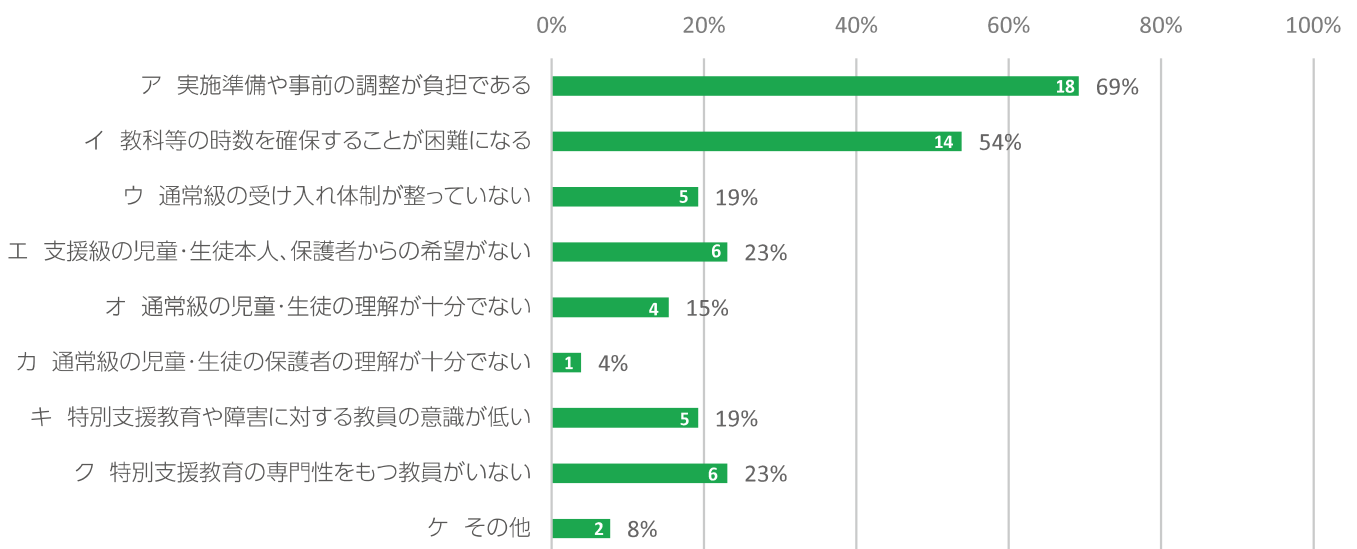
## 9 交流及び共同学習を実施しての課題、問題点等

※交流及び共同学習を実施していると回答した学校が回答

小学校(n:41) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した41校に対する割合



中学校(n:26) ※複数回答可 **回答数** 回答率(%) ※回答率は、交流及び共同学習を実施していると回答した26校に対する割合



- 小学校・中学校ともに教員の事前準備や調整が負担であるという回答が半数を超えている。
- 中学校においては、教科等の時数の確保が困難と回答している割合が高い。
- その他の回答としては、「支援級と通常級で授業を行う教員が複数いるため、時間割編成に多くの時間がかかる」、「行事前の共同学習などでは、講師を含めた時間割の調整が困難になることがあった」、「学級・学年によって特別支援教育に対する理解の差を感じる」などの回答があった。



## 10 交流及び共同学習を実施していない理由等

※交流及び共同学習の実施を検討中と回答した学校が回答

### (1) 交流及び共同学習を実施していない理由 ※複数回答可

理由	小学校 (n:1)	中学校 (n:2)
支援級の児童・生徒本人、保護者からの希望がない	1	2
その他	1	

### (2) 今後、交流及び共同学習を実施する予定の有無 ※複数回答可

理由	小学校 (n:1)	中学校 (n:2)
今年度(令和3年度)から実施の予定	1	
来年度(令和4年度)から実施の予定		1
その他		1

※令和3年度時点の回答

- (1)の質問における「その他」の回答は、「新型コロナウイルス感染症の影響のため」であった。
- (2)の質問における「その他」の回答は、「新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら実施を判断する」であった。

## 11 自由意見(抜粋)

### 研修等の要望

- 交流及び共同学習に関する事例などを共有してほしい。
- 中学校における自閉症・情緒障害特別支援学級の交流事例などがあることで、交流及び共同学習をより一層推進していけるのではないかと感じている。

## 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習に関する取組事例調査結果

支援級と通常級の交流及び共同学習に関する取組事例調査の回答から、以下に取組の事例を紹介する。

学級	校種	教科等	取組内容
知的障害 特別支援学級	小学校	体育	支援級の児童が通常級の児童にリトミックを教え、一緒に活動した。
		特別活動	ベースボール型ボール運動での交流の際に、ルールを工夫したことで、みんなでゲームを楽しむことができた。
		給食	週に1度、通常級と支援級の児童が交流給食を行った。
	中学校	全教科	学期に一度、授業に参加する「全校交流」を行い、2時間の授業を通常級の生徒とともに受ける。
		数学	図形領域の学習について通常級にて授業を受けた。
		特別活動	支援級の生徒がオリジナル百人一首を作成し、その札を使用して通常級の生徒と交流戦を実施した。
		運動会	通常級と支援級の有志で練習を重ね、「ソーラン節」を披露した。有志の募集や説明会等は生徒主体で実施した。
運動会	生徒の特性を考慮した種目やルールの工夫(人数、距離、ルール変更など)をした。		
自閉症・情緒障害 特別支援学級	中学校	道徳・総合	題材に対する自分の意見をまとめ、グループで意見交換を行った。